

※ 本リリースは国土交通記者会・交通運輸記者会に配布しております。

2022年12月9日

## 2021年 JNTO 国際会議統計を発表

- 2021年に日本で開催された国際会議の参加者総数は、前年比42.6%減の55,221人（うち外国人参加者数750人）で、現行基準\*<sup>1</sup>での統計では過去最低に。開催件数は、前年比86.9%減の29件。なお、2019年比では、参加者総数が97.2%減、開催件数は99.2%減。
- COVID-19の拡大・長期化に伴う国際的な移動の制約が続いたことにより、外国人の会議参加者の訪日が困難となり、オンライン手法などの活用によるリモート会議が年間を通じて開催され、国際会議の開催形態の一つとして浸透。上記29件に基準外会議\*<sup>2</sup>も含めると911件の会議開催報告あり。
- JNTOは、国際PCO協会（IAPCO）等国际団体との連携を活用し、変化しつつある世界の国際会議の動向把握に努めるとともに、日本各地の最新情報を積極的に発信し、更なる国際会議の日本開催に向けた誘致活動を推進。

### 【中・大型国際会議開催件数】

- 中・大型国際会議\*<sup>3</sup>は前年比84.6%減の2件、全件数(29件)に占める割合は6.9%ですが、外国人参加者数は約4割超を占めました。

### 【国際会議のリモート化が浸透】

- 国際会議（基準内）の開催件数は、昨年の222件から29件と激減した一方で、ハイブリッド国際会議\*<sup>4</sup>は昨年の12件から21件に増加しました。
- 基準外会議\*<sup>2</sup>も含め上記911件の開催状況を見ると、基準内においては半数以上がリモート併用の会議であったこと、また、基準外のリモート会議の件数も増加していることから、2020年以降リモート化が長期に亘り浸透したことが伺えます。なお、911件という年間の件数で見ても、2019年比では4分の1程度に留まっており、引き続き開催のハードルが高かったものと推察されます。

#### \*<sup>1</sup> 現行基準（以下のJNTO基準に適合した国際会議）

- ① 主催者：国際機関・国際団体(各国支部を含む)又は国家機関・国内団体(「公共色を帯びていない民間企業」以外は全て対象)
- ② 参加者総数：50人以上
- ③ 参加国数：日本を含む3居住国・地域以上
- ④ 開催期間：1日以上

#### \*<sup>2</sup> 基準外会議

全国から提出された会議のうち、全ての基準を満たしてはいないものの、定量面のみ基準値以上の報告があったリモート会議(基準外のため未精査)。

#### \*<sup>3</sup> 中・大型国際会議

国際会議のうち、外国人参加者数50人以上、および、参加者総数300人以上のもの。

#### \*<sup>4</sup> ハイブリッド国際会議

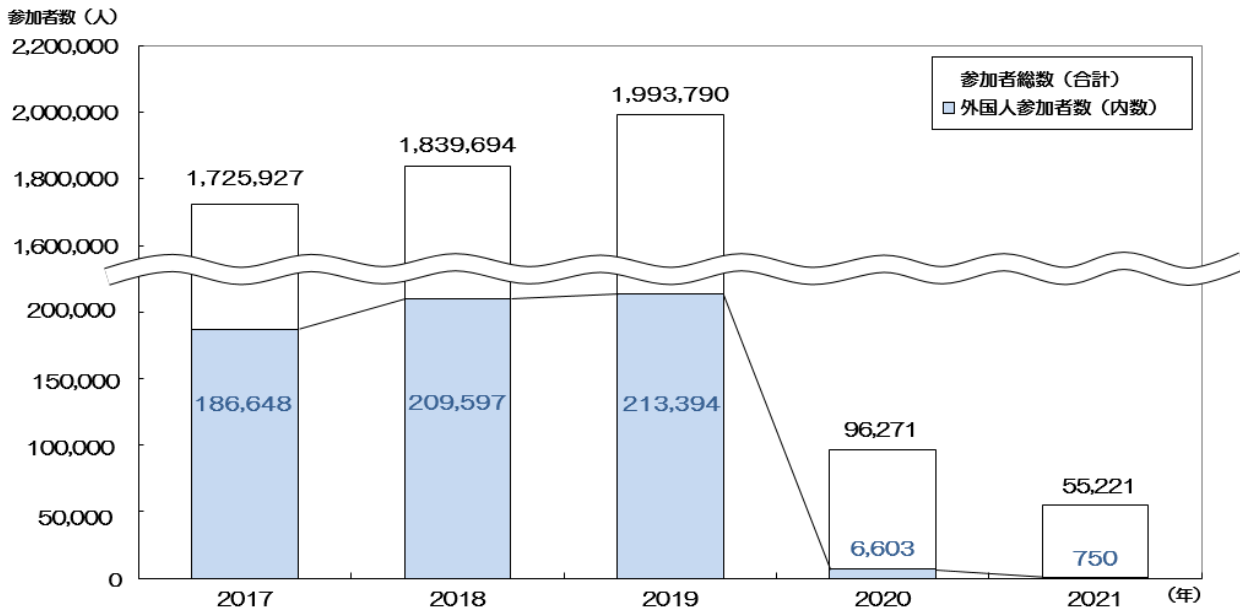
オンライン手法などの活用により通常の国際会議の会期中にリモートも併用して開催されたもの。

(注：更なる開催件数の激減に伴い掲載対象が僅少となった事情等を勘案し、都市別の図表は割愛)

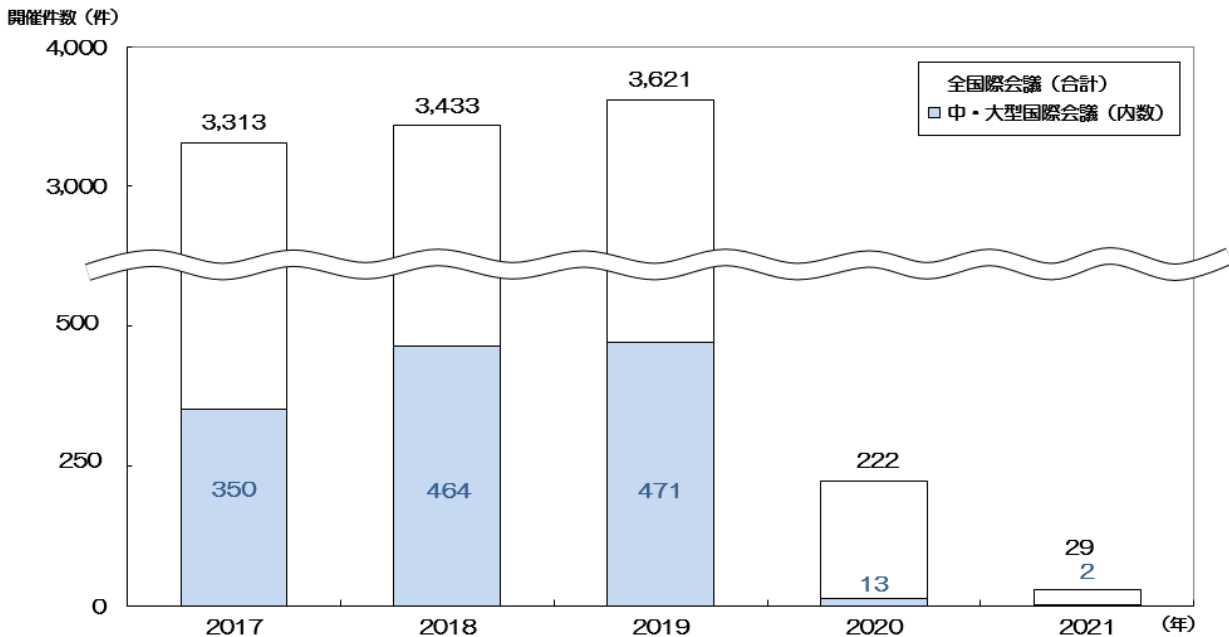
#### 【お問い合わせ先】

企画総室 調査・マーケティング統括グループ（子安、原口、福増）  
TEL：03-5369-6020 E-MAIL：survey@jnto.go.jp

図表1 日本の国際会議の参加者数（2017年～2021年）



図表2 日本の国際会議の開催件数（2017年～2021年）



図表3 基準外会議を含む月別件数（2021年／合計911件：うち基準内29件）

